

平成30年度 学校法人静岡理工科大学 静岡北高等学校 自己評価・学校関係者評価

どのような学校を目指すのか		1 常に誠実で、清らかな心をもって物事に真剣に取り組むことができる人材を育成する。 2 現状に甘んじることなく、日々新しいものを創り出そうとする気持ちを持ち、何事にも積極的に挑戦していく人材を育成する。 3 技術の進歩が著しい今日、大学院・大学・専門学校という高等教育機関の場において、高度な科学技術を習得できるように、基本的な学習を身に付ける。			学校関係者評価									
基本方針		将来、科学技術に夢と希望をもち、創造性豊かな人材育成の基礎をつくる。			※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。									
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	本年度重点施策	達成状況	5 : 最も良好 4 : ほぼ良好 3 : 普通 2 : やや不良 1 : 不良									
重点目標 4項目のうち3項目（「時代が求める教育を展開する」「法人内学校との連携強化」「評価される進路実績作りを行う」）は施策・成果ともに実現できた。目標生徒獲得数には届かなかったが、施策に対しては、全教職員が積極的に取り組んだと判断される。数年後に控えた新学習指導要領実施、大学新テストに対する教員の研修活動や生徒への試行も積極的に行われたと判断できる。次年度への取り組みが、PDCAのC（チェック）に当たるので、この点を踏まえた上で平成30年度達成目標（「目標生徒数を獲得する」「法人内学校との連携強化を図る」「時代が求める教育を展開する」「評価される進路実績を行う」）を再構築する。		【入口目標】	◎認知度を高める広報の展開	目標達成										
		◎目標生徒数を獲得する	◎新たな視点からの募集活動	目標達成										
		【中身目標】	◎法人のメリットを生かし法人内進学者を確保する	目標達成										
		◎ディープ・アクティブラーニング、ICT教育	◎主体的・対話的・深く学ぶ姿勢の育成	目標達成										
		グローバル教育、SSH3期目指定校	◎国際連携・ICT教育等時代が求める教育の展開	目標達成										
		【出口目標】	◎SSH第3期指定校となる	目標達成										
		◎評価される進路実績	◎きめ細やかな進路指導と入試改革への対応	目標達成										
評価項目	具体的目標	具体的方策	自己評価		成果・次年度への主な課題	学校関係者評価							平均	
			評価	平均		評議員A	評議員B	評議員C	評議員D	同窓会	地域住民	教育関係者		
学校経営	学校をとりまく環境が大きく変化の中で、第3次中期計画の学校経営への落とし込みと刷新を行う。	作成された第3次中期計画2年目の諸教育目標に基づいた教育活動を展開した。	4	4.0	教育を取り巻く社会環境の変化から、計画の修正や目標数値の変更などを検討し教育活動を展開したい。	4	4	4	5	4	4	3	4.0	
教育課程・学習指導	近づく新学習指導要領への移行に対して、静岡北高校の将来あるべき姿を再検討・再検証を行い、見合った教育課程編制と学科見直し検討を進める。	現状、コースに応じた教育課程が編制され、それに基づいた学習目標・計画を明示した。	4	4.0	新学習指導要領の完全実施に合わせ、学科・コース制共に再編について検討する。	4	4	4	5	4	4	3	4.0	
		必要に応じ、習熟度別や少人数授業を展開し効果をあげた。	4											
生徒指導	多様化する生徒に対応できる学校体制・教員体制を構築するために、外部関係機関との連携を密に行う。	生徒が健全な学校生活を送れるように生徒への啓発活動を行った。	5	4.0	教員による生徒指導から、生徒会や委員会の活動による自治活動ができるような態勢作りを検討する。	4	4	4	4	4	4	4	4.0	
		サポート体制を家庭との協力のもと確立し、生徒理解に努めた。	4											
		自立した生徒の育成のための支援を行った。	3											
進路指導	学校の方針に基づいた進路指導の展開は行われているので、多様化する生徒＝進路に対する研究・研修を行う。	進学については、質・量共に目標を達成した。	4	4.0	自身の進路決定に向けて、学習のみならず、「主体的・対話的で深い」活動を通し、進路選択ができる生徒を育てる。	4	4	4	4	4	4	4	4.0	
		就職者への指導の充実を図り成果をあげた。	4											
		第1学年からのキャリア教育を充実させ、定着を図った。	4											
安全管理	いつ発生するか不明である災害に対しての安全管理マニュアルの確認と、マニュアルに従った実動性のある体制、対応を整備する。	防災訓練を定期的に行った。	3	4.0	登下校時や、地域における自身と他者の安全管理について意識を高めさせる。マニュアルの再確認を行い、必要に応じて加筆・訂正を加える。	4	4	5	5	4	4	3	4.1	
		安全管理マニュアルの改善を図った。	5											
保健管理	生徒が主体的に健康・保健管理ができる体制を整えるために、専門機関との連携を深め、情報伝達するよう機会を設定する。	生徒の健康管理のための検診計画を作成し、着実に実施した。	4	4.0	生徒の日常生活の中で心配される食生活やストレスへの対応を保護者の協力を得ながら進めていく。	4	4	5	4	4	4	4	4.1	
		疾病者に対する治療勧告を確実に行った。	4											
		JRC部を主とし、ボランティア活動への積極的な取り組みを行った。	4											
特色ある教育	学校法人静岡理工科大学のスケールメリットが、より実動するように、法人、大学、専門学校との連携や情報交換ができる機会を多く持つ。	教職員が法人内各校の魅力を共有した。	4	4.0	法人内の大学・専門学校進学による将来の進路展開や経済的負担の軽減などのメリットについて、評価委員として外部発信していく。	4	4	4	4	5	4	4	4.1	
		法人内各校と定期的に情報交換会を実施した。	4											
組織運営	教員の働き方改革を考察し、「働くことへの考え方」「働き方」について研修する機会を設け、そこから派生する諸問題について、できる解決策は実践し、残された課題についての解決策を洗い出す。	規律をもって教職員が服務を遂行した。	4	4.0	教育環境の変化や新学習指導要領への移行をふまえ、さらには静岡北高等学校の将来展望を検討していける力を持った組織作りを検討する。	4	4	4	5	4	4	3	4.0	
		計画的な予算編成を中長期的な観点で行い、日常の経理業務を正しく管理した。	4											
		校務分掌等、教育環境の変化に応じた体制を検討した。	4											
研修	能動的であったり、受動的であったりする研修を繰り返し行い、教員一人一人が研修を企画できるスキルを身につける。	授業改善、教員の資質向上のための研修を複数回実施した。	4	4.0	学校の教育内容が問われる時代、生徒のため、教員の資質向上ためとなる研修を継続する。	4	4	4	4	4	4	4	4.3	
		「建学の精神」「校訓」「信条」「教育目標」「育てていきたい生徒像」など、今後の教育の根幹になる部分について、研修を複数回実施した。	4											
保護者、地域住民との連携	保護者の会、同窓会、教育振興会と一体感が醸成できるような取り組みを企画する。または現存する企画については、よりブラッシュアップを行い、内から外から応援してもらえるような体制を作り上げる。	3団体から多面にわたる支援協力をいただいた。	4	4.0	専門的なことについて知識を持っている行政や地域住民の力を得るために、情報交換を促進する。	4	5	4	5	5	4	5	4.6	
		静岡市を含む行政や静岡商工会議所との連携を深めた。	4											
		選挙従事への協力や各種事業への生徒派遣を行った。	4											
施設設備	新規施設の検討も視野に入れながら、現存する施設の有効活用するための、定期的点検と美化について、全教職員で実施できる計画を立て、共通理解の下実施する。	校地南側のブロック塀撤去とフェンス設置工事を実施した。	4	4	計画している中学棟・親和館（特別棟）に替わる複合施設と体育館の建設に向け検討を行う。	4	4	4	4	4	4	4	4.0	
		高木の剪定、老朽施設・設備の整備など、教育環境整備と環境美化を行った。	4											
			平均	4.0								4.1		

学校関係者評価委員のコメント

○ 学校関係者として結果に対する評価をするだけではなく、高評価（好評）を得ている静岡北高等学校の募集・広報活動にも協力をしていきたい。

○ 目標入学者数に届いていないことは、学校側から説明を受けないとわからないくらい、静岡北高等学校の高評価、好評ぶりを聞いています。対象者の中学生が減少していく中で、募集・広報活動は善戦していると判断します。目標入学者数にとどいていないものの右肩上がり、人数は増加しているようなので、次年度に期待します。

○ 法人内の大学、専門学校においても、社会のニーズに応え人材育成を行っているということで評価を得ていることは伝わってきている。学校からも大学、専門学校の教育が充実し、入学生が増加していることの報告を受けている。そのような大学・専門学校への進学コースが整えられていることは、他校にない教育として大きく評価できます。

○ 全校において課題研究を行う第3期SSHに指定されたことは、静岡北高等学校のみならず、静岡市・静岡県の教育界に影響を与えると評価します。併せて、指定を受けることが困難な第3期を通過することにより、通算17年間のSSH指定期間は素晴らしい功績と評価します。

○ 大学進学においては、東京大学をはじめとして、旧帝国大学、医学部、難関私立大学への合格者・入学者を出すというすばらしい結果に、評価委員としても満足のいく内容である。専門学校においても、法人内学校への進学者を定着させている点では満足のいく内容と言える。就職希望者に対しても、丁寧な指導で対応し、有効求人倍率との関係があるにしても、ほとんどの生徒が第一希望先に合格・入社している結果にも、静岡北高等学校の教育力と教員の熱心さが伺えます。

○ 第3次中期計画が落とし込まれた学校経営計画の諸教育目標に基づいた教育活動が展開されている。

○ 理数科、国際コミュニケーション科、普通科、さらにはコースに応じた教育課程が編制され、それに基づいた学習目標・計画が明示されている。必要な部分では、習熟度別や少人数授業を展開し効果をあげている。

○ 生徒が健全な学校生活を送れるように生徒への啓発活動を行い、サポート体制を家庭との協力のもと確立している。

○ 進学については、質・量共に目標を達成することができている。就職者への指導も成果が出ている。学校からの指導だけでなく、生徒自らがキャリア研究が進められることが望ましい。

○ 学校における防災訓練は定期的に行われ、教員の指導下での安全は守られているものの、学校を離れた登下校時や、地域における自身と他者の安全管理について、意識を高めたら、さらに効果的である。

○ 生徒の健康管理のための検診計画が作成され着実に実施、疾病者に対する治療勧告を確実に行うなど、年々精度が高まっている。また部活動の活性化、ボランティア活動への積極的な取り組みも行われている。

○ 高・大一貫コース、高・専一貫コースも静岡北高等学校独自の教育活動として定着していることが伺える。

○ 報告書などを通じて、組織的な校務分掌体制が整い、計画的な予算編成を中長期的な観点を考え行い、日常の経理業務を正しく管理していることが感じられる。

○ 授業改善、教員の資質向上のための研修だけでなく、「建学の精神」「校訓」「信条」「教育目標」「育てていきたい生徒像」など、今後の教育の根幹になる部分について、回数をかけて研修することができたことは、評価に値します。

○ 三団体「保護者の会」「同窓会」「教育振興会」からの学校と生徒に対する理解は高く、多面にわたる支援や、静岡市を含む行政や静岡商工会議所との連携は今後も続けていただきたい。

○ 校地南側のブロック塀撤去とフェンス設置工事に始まり、高木の剪定、老朽施設・設備の整備など、安全対策を優先させていることは評価に値する。